



まず、動き出す  
やれない理由を探さない  
みんな一緒に汗を流す

看板が少なくて困った」と話す井本宗志さんのように、観光客に近い目線で地域を見つめることもできる。つまり「観光客が求めるもの」ニーズを知ることにもつながるのだ。この検討会の大きな強みといつてもいいだろう。

井川線収益向上検討チームの佐藤廉リーダーはこんな話をしてくれた。

「以前よく利用していた旅館がありました。ひなびた感じで気軽に泊まれて重宝しているんです。あるときその旅館が、屋内ゲートボール場を作ったんですね。雪が降る地域だったので、冬場は外でプレーできないそうなんです。その旅館が現在どうなったかというと……。300人収容する大きなホテルに変身しました。これは発想力の勝利。ゲートボールは外でやるものという固定観念を覆した結果なんですね。冬場だってゲートボールをやりたい人はたくさんいる。お客さんが今、何を求めているかを知ることが第一歩なんですね」。

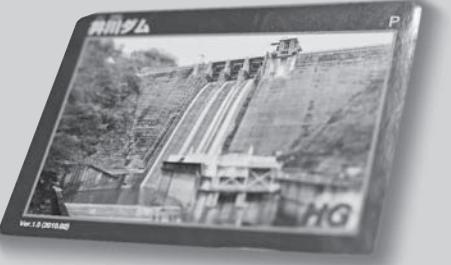
「思ひ」があつて、ニーズを把握したとしても、それを「実行」に移さなければ、何も生まれない。逆に言えば、持ち寄ったアイデアやまとめられた提案は「実行」に移すことから始めた検討会では初めて価値や効果が生まれ、そこから新たな可能性が広がっていく。

成功したら、それをどう継続していくか、新たな工夫を盛り込んでいくか。もし失敗したら、何が悪かったのか、何を改善すべきなのか。その積み重ねによって前に進むことができる。

大井川未来予想図検討会ではこの2年間、内容、役割分担、材料調達、経費、スケジュールなど、地域住民や他団体との折衝や意見交換を繰り返し、その結果を受けて個々の活動を実践してきた。

それぞれ検討チームによつて計画の進み具合には差があるものの、どのチームも「今、自分たちにできることを始めよう」を合い言葉に、積極的に取り組んでいる最中だ。

▶本町・井川地区活性化検討チームが「大井川流域の交流人口増加」を図りたいという趣旨のもと、流域に点在するダムに着目。訪れた人に配布する「ダムカード」を企画・製作した。国交省の規格に準じたダムカードを民間が作成するのは初めての試み。いずれは、地元商店街などで配布するなどして、地域活性化の一助としたいと考え。関係機関と折衝を続けている。



# Do

## 第2章 実行

動き始めた3つの検討チーム  
共に汗を流した地域住民、各種団体…  
これまで2年間の活動を経て  
形を成していくものがある  
いまだ、実現に至っていないものもある  
その全てが、協働による活動の「足跡」



### 将来の町の姿を見据えて 「今」から動き出す

まちづくりは時間がかかる。1年、2年で結果が見える活動もないわけではないが、たいてい5年、10年、場合によつてはそれ以上かかることがあるだろう。それだけに地道な努力の結晶ともいえる。寺本所長は検討会の討論の中で、まちづくりについて次のように語っている。

「何かの取り組みをするとして、実践してすぐに結果が見えるのなら、みんな既にやっているはず。人口が減り続けている本町にあって、例えば「寸又峡を初めて訪れ、案内

結果が10年後に見える取り組みならば、今から始めないといけない。ようは若い人、子どもたちに10年後、誇りを持つて『この町に住んでいた』と言つてあげられるかどうかなんです。考えるだけじゃない。今こそ、動き出すことが必要なんです」。

くりは「思い」だけでは成立しない。外からの視点も大切だし、ニーズを知ることも重要だ。そういう意味でこの検討会は、町外から転勤してきたメンバーが多く、外からの視点には事欠かない。「寸又峡を初めて訪れ、案内

本町・井川地区活性化検討チーム  
福代仁さん（島田市）

グラウンドゴルフで町おこしをするため、地域のスポーツ団体の調査、アクセス・宿の調査などをしました。この活動を通して、地域の資源について改めて学ぶ機会にもなりました。今後、大会実現に向けて活動を続けています。この取り組みが、地域活性化の役に立てればと思います。

